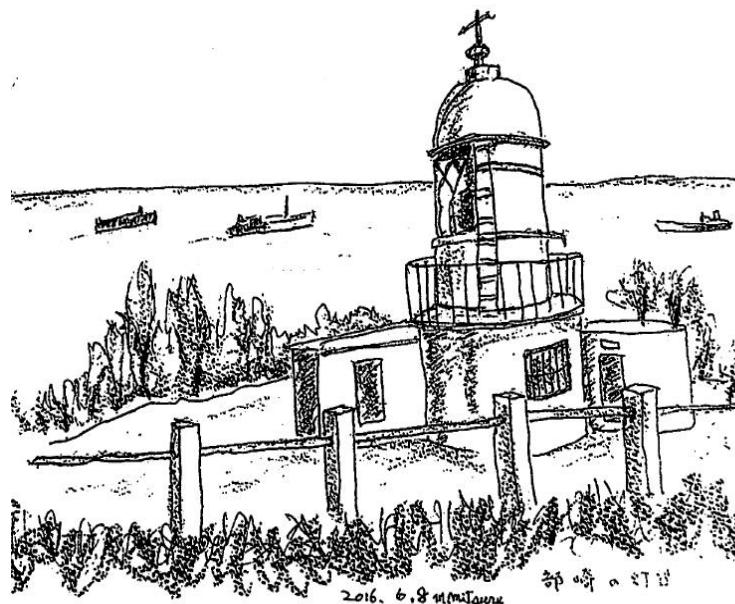


週報2021年9月5日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書4章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年9月5日

(オンライン礼拝) HP アドレス：<http://jesus.holy.jp/>

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	コーラス 19「イエスは勝利をとられた」
祈祷	*今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！*
聖書朗読	イザヤ書 55章 6～11節
説教題	「御言葉は天より下り地に満ちる」
祈祷	御言葉の応答の祈り
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- *互いに愛し合っていますか
- *互いに赦し合っていますか
- *互いに祈りあっていますか

説教要約

イザヤ書55章 6-11 節

「御言葉は天より下り地に満ちる」

①自らの計画とは異なる神の計画

「神の国イスラエルは滅びるはずがない」イスラエルの民は皆、心の中でこのように思っていました。だから、戦乱の中でも、飢えと貧しさの中でも、どこかで「私達は大丈夫」と思い続けていました。しかし、イスラエルは預言者イザヤが預言した通り、バビロン帝国によって滅ぼされました。神が忌み嫌う偶像崇拜を止めなかった結果、イスラエルは裁きを受けました。そこで、彼らは始めて“自らの思いとは異なる神の計画を”知ったのです。

今日の箇所(6-11 節)でまず一番目に大切な事は御言葉【主】を求める事です。そしてこのポイントは 55 章冒頭でも語られています。1 節から 3 節の強調点は主の命令です。主は命の源泉である私に向かって出て来なさいと呼び掛けています。実はこの“出て来い”と言う言語は“行きなさい”と言う意味も含まれています。創世記のアブラハムの召命でも使われている言葉です。※ 12 章 1 節。つまり、この神の言葉を求めて出て来いと言う命令は、言い換えると自らの歩みを神の計画に向かって歩き出しなさいという意味になります。

聖書では人を羊によく例えます。私達が良く誤解するのが、迷うこと自体が悪いのではありません。迷っている状態を認めず、大丈夫と言い張る事が問題なのです。羊には羊飼いが必要。これが聖書のメッセージです。聖書が求めている事は、自らの道より高い神の道に対して心と体を向けていく事です。

②神の計画は必ず実現する

イザヤ書 55 章 10 節から自然の話に移ります。唐突なようにも感じますが、神様のメッセージは連動しています。雨や雪は天から降り、地を潤し、作物を実らせます。そのように(11 節が肝)神の言葉は天より下り、地に満ちて行きます。つまり、神様は必ず御言葉を成就させる方、そしてそれを求める人は御言葉の恵み(実現)に満たされる事を強調しています。

今日の箇所は自然界の王、そしてイスラエルの王を象徴するダビデ王に契約を交わした神の存在、つまり【主】に目を向けさせようとしています。ダビデ王

がイスラエルを象徴する王として取り上げられるのは、神の御心に忠実だからです。しかしそんなダビデも罪を犯します。神の意志に反した行動を取ったのです。(II サムエル 11:27)ダビデは心から悔い改めました。そこで神様から慈しみと赦しを得ました。神の切なる願いは人が神の心に立ち返って変わらない愛と赦しを受け取る事です。イザヤは神の言葉を預かり、イスラエルの民に心と体を天に向けて、神の心に立ち返る事を促しています。

聖書の言葉は必ず成就します。私達の祈りは決して無駄になる事はありません。良い地に蒔かれた種の例え話があります。この例えの大切なポイントは、良い土地に種(御言葉)が落ちる事です。私達は、御言葉(神の愛)を素直に受け入れるまで試練をくぐり、不信仰の為に種を枯らしたり、取られたりします。でも神の愛と赦しと誠実を求める人は御言葉によって養われ成長していきます。御言葉による成長とは神の愛の深さを学ぶことです。御言葉に対する信頼を続けて、御言葉によって養われて参りましょう。

③御言葉の恵みを地に満たす

55 章 12-13 節も今日の箇所と連動しています。御言葉の種を求める人は種が与えられ、御言葉のパンを求める人はそのパンが与えられます。そして、喜びの歌と共に、いばらが、もみの木に生え変わり、おどろ(草木が乱雑に生えている様)がミルトスに生え変わるとあります。この意味は御言葉を信じる人は呪いではなく祝福の道が与えられると言う事です。

ミルトスとはパレスチナ地方に生えている植物で、花や草から良い香りがし、鎮痛剤の様な用い方をします。祭りごとや祝いの席に枝や花を飾ったりするため「祝いの木」と呼ばれています。神様はイスラエルの民が、おどろおどろしい悲しみの道、失望の道、暗闇を通る事を願っていません。いつも喜びがあり、賛美に溢れ、愛と慈しみの香りを放つ、祝福の道を歩ませようとしています。その為に、主は一言「私を求めるなさい」と語られます。

私達は時々、現状を呪うかのように嘆く事があります。生まれた時代、場所、環境や境遇についてです。私達はそれらの条件が変わる事で幸いを得ようとなります。しかし真の幸いはどのような境遇にあっても変わらない神の言葉を体験する事です。そこにはもはや呪い等なく、祝福が溢れて行きます。厳しい現実の中にあって祝福の使者となる為に、いつも神の言葉を求める前進して参りましょう。